

平成29年度静岡福祉大学附属図書館企画展

「2人の開拓者：高橋五山と小泉八雲の世界」

～教育紙芝居創始者・「いなむらの火」原作者～

開催日程：平成29年12月8日(金)～平成30年1月26日(金)

休館日：土日祝日、年末年始(12/28～1/4) ※1/8(月・祝)は開館

開催時間：9時～17時15分 ※開始初日は、13時より開式予定

開催場所：静岡福祉大学附属図書館多目的室(管理棟2階)

問合せ：静岡福祉大学附属図書館(静岡県焼津市本中根549-1)

電話：054-623-7452(図書館直通)



高橋五山

高橋五山(本名昇太郎：1888～1965)

1961年に創設された年間出版紙芝居の最優秀賞「高橋五山賞」としてその名が知られる。紙芝居の脚本・絵・出版を全て自身で行い、現在に繋がる印刷紙芝居の先駆者となった。戦前(昭和初期)には、「ふしぎの国アリス物語」、「ピーター兔」等の西洋童話を紙芝居にして日本に伝えた。

また、1923年9月1日午前11時58分に発生した関東大震災について、子どもたちに向けて、「大正大震災号」を発行するなど雑誌編集者・ジャーナリストでもあった。



小泉八雲

小泉八雲(ラフカディオ・ハーン,1850～1904)

明治初期、海外へ日本昔話(「若返りの泉」等のちりめん本)を初めて伝えた。

また、1896年6月15日午後7時32分に岩手県を中心に発生した明治三陸地震について、衝撃を受け、「いなむらの火」の史実を知り、同年12月号の「大西洋評論」誌に「いなむらの火」の原作「A Living God(生神さま)」を発表、同作品を収録した「Gleanings in Buddha-Fields(仏の国の落穂)」を1897年9月アメリカで発表した。

五山と八雲は、ジャーナリストの視点を持ち、災害(関東大震災/明治三陸地震・安政南海地震)をいち早く伝え、“外国文学”(西洋童話・日本昔話)を子どもたち等にわかりやすく紹介しました。八雲が西洋に伝えた日本昔話「若返りの泉」は、五山により紙芝居として、「あかんぼばあさん」・「あかんぼじいさん」として制作され、日本の子どもたちに伝えられました。

当展示会では、高橋五山と小泉八雲の2人の共通点(外国文学紹介・災害・若返りの泉の昔話)を中心に展示します。(2人の終焉の地は共に新宿区でした。)

特に災害の紹介では、関東大震災と明治三陸地震の実際の被災写真を展示します。

子どもたちにわかりやすい展示を心がけましたので、来場者の皆様には2人の開拓者(五山と八雲)の多方面の業績をご覧いただき、防災意識の向上に役立てていただきたく願っています。

企画展示内容：

1.高橋五山について

(1)五山が日本へ伝えた西洋童話

(2)編集者・高橋昇太郎(五山)が伝えた災害(関東大震災)：「大正大震災号」

2.小泉八雲について

(1)八雲が海外に伝えた日本昔話

(2)八雲が伝えた災害(明治三陸地震・安政南海地震)：

「A Living God(生神さま)」「いなむらの火」

(3)記者・小泉八雲

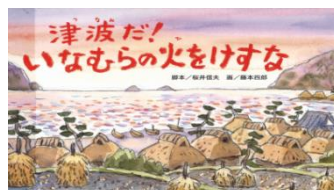
3.八雲の「若返りの泉」/五山の「あかんぼばあさん」「あかんぼじいさん」

共催：焼津小泉八雲記念館

協力：高橋洋子氏(高橋五山親族・全甲社代表)/焼津小泉八雲顕彰会
盛岡地方気象台(岩手県)/広川町教育委員会(和歌山県)



五山が伝えた関東大震災
「ポツチャン増刊大正大震災号」(全甲社)



八雲原作の「いなむらの火」を伝える
紙芝居「津波だ!いなむらの火をけすな」
(都市防災研究所)